

「音風景 (サウンド・スケープ) の展示とは」

日本におけるポピュラー音楽と博物館

◆ ポピュラー音楽 (PM) のミュージアム (広義のものも含む)

① 個人の業績に関するもの

美空ひばり (嵐山「美空ひばり座」、長野「美空ひばり歌の里」)
ジョン・レノン (さいたま「ジョン・レノン・ミュージアム」)

展示品: ステージ衣装やレコード、楽譜および 遺品を用いた自宅の再現。

② 機材や楽器に関するもの

オルゴール・ミュージアム
楽器博物館 (浜松市立)
音楽大学の附属博物館

展示品 : 蓄音機やオルガンが少々。

③ 音楽作品 (メディア) に関するもの

レ・コード館 (北海道新冠・町立)

④ サウンドスケープ (音風景) に関するもの

音戯の郷 (静岡奥大井・町立)

「音戯の郷」のフィールド調査から (実施: 2009年10月24日土曜日 12:30-14:30)

おとぎ
音戯の郷

「音」の体験型アトラクションと、周辺の音風景のアーカイブを持つ。設立 1998年。

◆ 場所

静岡県奥大井 (本川根町)

◆ 館のコンセプト (内部資料より)

・「音戯」… 音と戯れ「五感と遊ぶ」、ファンタジーや不思議の好奇心を呼び覚ます「オトギ感覚」

・音を中心とした「五感遊び」を楽しみ、子ども心と好奇心を取り戻すための故郷を意味。

・ストレスの多い日常生活で感度の鈍った五感のホコリをはらい、自然への感応力・感受性を取り戻すための感性の故郷。

※ 都会と田舎、日常と非日常などを対比させ、きわめて「非日常的な空間」として位置づけている。

◆ 施設

有料スペースは屋内のみ。約1時間で館内が1周できる。

◆ 展示

五感を用いたアトラクションによる展示（ハンズオン）。13種類+α。

鳴らす …… 打楽器

聞く …… 野鳥の鳴き声や、周辺住民の推薦する「私の好きな音」、周囲の自然音、珍しい自然音・楽器音、オルゴールなど

見る …… 音を視覚化する装置、シアター

考える …… 音当てクイズ

展示の工夫 : 聴診器の配布

音に集中させるため。

※ 結果的に設備の耐久性を上げている（職員談）。

音の氾濫を防いでいる

◆ 来館者の様子（館内の観察より）

大半が小学生以下の子供を連れた家族連れ。

盆以降・夏休みの終わりまでは3世代での来館、10月は周辺地域の学校の遠足で利用者が増える（副館長へのインタビューより）。※ 平日はほとんど空？

SLの運行状況の影響を如実に受ける。

◆ 人びとの楽しみかた

聴診器系のアトラクションを楽しむ人はわずか。

視覚系が人気。

あちこちに素朴なしかけの音のおもちゃがあり、小さな子どもはそれに夢中。

◆ 運営状況 — 副館長へのインタビューから

- ・ 音、というコンセプトを思いついたものの、内容については東京のプロデューサー（音環境デザイナー・小久保隆氏のことか？）に一任だったらしい。
- ・ 町の財政状況に大きく左右されており、運営は大変苦しい。当初はコーディネーター（非常勤）と学芸員（常勤）がいたが、次第に廃止され、現在は、町の職員 1 名と嘱託職員（5 名ほど？）で「維持」。併設カフェも閉鎖。
- ・ 大型設備は開館から入れ替えなし。（3D シアターから DVD シアターへの移行くらい）
- ・ アーカイブについても全く入れ替えなし。したがってリピーターがほとんど見込めない。
- ・ NHK のアーカイブなどを借りてくるなど、職員の間で特別展の企画が上がることもあるが、予算の問題で実現せず。企画＝DVD の展示内容と、ワークショップの考案になっている。

◆ まとめ

- ・ マンガミュージアムにおいてマンガ文化を享受しているのは館内でマンガを読んでいる人たち → 音戯の郷においては、何も考えずに楽器と戯れている人がそれに相当か？

・ 地元の音風景のアーカイブは、その土地の住人にとっては意義のあるものだろうが、遠くからやってくる人にその価値は見出しにくい。

◆ PM のアーカイブ

アーカイブに相当するもの

1 商品として販売されているもの

全集、BOX、リビュート盤、リミックス盤など

CDショップやレンタル屋で、店員が「なつかしの 60 年代ポップス」といったコーナーを作っていることもある。

2 放送されるもの

懐メロ番組などの音楽番組、音楽番組の 1 コーナーに設けられることも。

3 ネット上にあるもの

You Tube などの動画サイト